安全管理プロジェクト活動報告

徳永誠　加藤美佐　小山哲夫　佐藤亜矢子　設楽浩明　田中協子　中島綾子
平原実留　降矢久美子　川原藤樹※　小林邦宏※※　川田良暁※※　沼本啓良※※※
物質・生命科学系　※電気電子情報系　※※機械建設系　※※※センター事務

1. はじめに

本プロジェクトは、埼玉大学の教育・研究現場の安全管理活動を支援することを目的としている。以下に 2021 年度の主な活動について報告する。

2. 今年度の活動報告

2-1 薬品管理システムの管理・運用支援

総合技術支援センターでは、埼玉大学で購入したすべての毒劇物薬品を薬品管理システム(IASO)へ一括登録しており、本プロジェクトはこの業務を支援している。IASO に登録されている基本データ（薬品データベースやユーザーに関する基本データなど）の管理、薬品の使用や廃棄の際の IASO 利用法や廃液処理依頼伝票作成に関する問い合わせにも対応している。また、昨年度に引き続き、薬品管理システム使用方法のオンライン説明会用資料を作成した。その他、PRTR 法・さいたま市条例に係る届出のためのデータ提供も行った。

2-2 安全管理についての情報提供・収集

本プロジェクトでは、教育研究機関化学物質管理ネットワーク(ACSES)より配信されている「ACSES ニュースレター」の記事から、学内に周知すべき事項を編集した「化学物質の安全管理かわら版」を学内向けに発行している。本紙は全学の安全衛生委員会の資料としても活用されている。2021 年度はトピックス・最近の話題で、「大学での毒物紛失や火事の事故事例」等の大学で発生した事例を多く取り上げた。

ヒヤリハット事例収集については、学内数カ所に投書箱を設置しているほか、今年度からは総合技術支援センターホームページに「Web 入力フォーム」を開設し、情報提供を呼びかけている。

また、「第 14 回 関東甲信越地区大学安全衛生研究会」にオンライン参加し、新型コロナウイルスへの対応など、他機関の安全管理関連情報の収集にあたると共に、「第 9 回 北関東地区技術系職員安全管理ワークショップ」では薬品管理等の安全教育のオンライン化について報告した。



化学物質の安全管理かわら版

2-3 その他の活動

工学部応用化学科からの依頼を受け、学生実験の安全教育をオンラインで行った。

3.今後の展開

大学は、事業所として各種安全関連法令の遵守が求められる一方、教育研究機関として常に高度な教育と研究成果を期待されている。経験の浅い学生たちが多い作業現場の安全にも十分な注意を払わなければならない。このように、大学には一般の事業所とは異なる安全管理が求められる。私たちは、教員・学生を技術面で支援する技術職員として、その経験や知識を生かし、また、学内のヒヤリハット情報や他機関から得た安全管理情報などを積極的に学内にフィードバックすることで、大学の作業現場に即した安全管理活動を展開し、埼玉大学の研究教育活動に貢献していきたいと考えている。